

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「共同利用・共同研究課題 シティズンシップと政治参加 ―移民／難民によるコミュニティ形成と社会福祉への影響の比較研究―」（平成 26 年度第 2 回研究会）

日時：平成 26 年 10 月 25 日（土曜日）12 時 30 分より午後 5 時

場所：AA 研マルチメディアセミナー室

■ 報告者名：近藤敦（AA 研共同研究員，名城大学）

報告タイトル：医療・保健：日本における 2014 年の移民統合政策指数

本発表では、移民統合政策指数（Migrant Integration Policy Index: MIPEX）の特に医療・保健に関する分野について、日本の政策が国際的にどのように評価されているのか、データと分析が報告された。MIPEX は EU 諸国に始まり、2014 年 9 月現在では日本を含む 37 カ国で実施されている調査である。労働市場、家族統合、教育、政治参加、定住、帰化、差別禁止の 7 分野に加えて、医療・保健を含むそれぞれの調査項目について正規滞在者の権利状況が比較されている。2010 年に始まり、平等や多文化主義的統合を理想として、現状が指標で示される。その結果を示すことにより、各国における問題状況を発見し、また各国の政府に対して改善を促すことが意図されている。

医療・保健に関する調査では、正規移民に対する医療費の負担だけでなく、非正規移民の場合の負担、移民への保健教育と健康増進を対象とした政策などが評価の対象とされる。また医療通訳の必要性についても言及されている。こうした評価の中で、日本は総合順位ではきわめて低い順位に位置づけられることが報告された。

発表の中では、質問項目に対して各国の問題関心との間にずれが生じる問題や、各国の様々な社会福祉政策を国民と外国人それぞれに対する政策比較のみで評価することの限界などが指摘された。さらに MIPEX は制度を評価するもので、実態との間には齟齬が生じうる。また日本国内では「移民」という名称を用いた政策が忌避される傾向があり、「定住外国人」との呼称が使用されることが言及された。

質疑では、MIPEX の評価項目における質問に対して、回答者によって含意の捉え方が異なるのでは、との質問が出され、評価や線引きの難しさについて議論された。

■ 報告者名：佐伯美苗（AA 研共同研究員，日本国際ボランティアセンター）

報告タイトル：事例紹介として：アフガニスタン難民・帰還民の社会的包摂と排除

本報告では、難民のホストカントリーでの社会的包摂を示す事例として、パキスタン、イランによるアフガン難民の受け入れの歴史と制度、そしてアフガニスタン帰還民の状況を紹介した。

最初に「アフガン難民」の説明の前提として、「国家としてのアフガニスタン」を説明した。その領域的成り立ちに、英露の中央アジアでの角逐、所謂「グレート・ゲーム」の妥協としての緩衝国として成立したこと、未だ国境の未画定問題があることを説明した。

その歴史をふまえ、本報告では、アフガニスタン住民の多数派であるパシュトゥー系集団でアフガン難民を説明することを前置きとして述べた。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

次に、アフガン難民の類型化をし、その流出の特徴を提示した。アフガン難民といわれる人々は、歴史的に、(1) 1973年以前の、主に上流階級で構成され、ヨーロッパに流出し、欧州から政治活動を行ったグループ、(2) 対ソ戦時代およびその後の内戦期(1978-1994)に周辺諸国に移動した人々、(3) 1994年以降の内戦、また2001年以降の英米を主力とする攻撃によって周辺諸国に移動した人々、の3パターンに類型化することが出来る。さらに(2)と(3)の連続性と相違点に注意しつつ、それぞれの流出に特徴的な現象を示した。

最後に、アフガン難民最大受け入れ国であるパキスタンとイランにおける難民の社会的状況について説明した。難民と援助団体の所轄官庁と難民の関係性、難民キャンプの生活などを説明した。そして、アフガニスタンへの帰還の動きを説明した。

本報告に対する質問としては、パキスタン、イランにおける難民の国籍取得に係る手続きおよび二重国籍者の割合が挙げられた。また実態として難民キャンプに戦闘員が含まれる可能性についても言及がされ、そうした場への援助をめぐる問題等について議論がなされた。